

# オーストラリア多文化共生社会体験プログラム

～自信を持ってお勧めします～

## ○私の留学記録

### ①期間

2020年2月15日～2020年3月21日（36日間）

### ②スケジュール

	月	火	水	木	金
6:00～8:00	<b>朝準備</b> ・ホストマザーと公園でウォーキング ・バスを使って“一人で”登校				
8:00～10:00	<b>授業</b>				<b>施設見学</b> ・美術館 ・博物館 ・科学館
10:00～12:00	<b>授業</b>				
12:00～14:00	<b>自由時間①</b> ・学校の図書館で課題				
14:00～16:00	・留学生向けプログラムに参加 →パトミントン・グローバルカフェで長期留学生とも交流				
16:00～18:00	・シティでの水曜限定のマーケットへ				
18:00～20:00	<b>自由時間②</b> ・ホームステイ先で課題				
20:00～22:00	・ホストファミリーと夕ご飯 ・リビングでファミリーと過ごす時間 →Netflix・GREED(盤ゲーム)を通じたコミュニケーション				
23:00	<b>就寝</b>				

QUT（クイーンズランド工科大学）での授業は、現地に到着した最初の月曜日から帰国日の一日前まで毎日あります。ただ、自由時間も多いため自分の行動力によって36日間の充実度は変わってきます。私は、①現地で出会った人との交流 ②オーストラリアの大自然を満喫すること に多くの時間を割きました。

## ○授業をはじめとした現地での“英語”について

### ①授業の様子

登校初日に4段階にレベル分けされ授業がスタートします。私のクラスには、現地大学への進学を控える中国人や、ワーキングホリデー中の台湾人、家族と移住してきたサウジアラビア人など、年齢も国籍も異なる約20人の生徒がいました。クラス編成がまさに“多文化共生”であったと思います。

授業は4人グループでのアクティブラーニングでした。話す・聴く・書く・読むなど様々な活動をしてきましたが、一番面白かったものは、「貧困」や「学歴社会」をテーマにしたショートストーリーについてのディスカッションです。この授業を通して、話をするときに大切なことは、技術的な語学力よりも、自分の明確な意見を持つこと、そしてそれを自分の言葉で伝えることだと学びました。

## ②テスト・課題について

テストは、登校初日に行われるレベル分けテストと、授業の成果を測るための最終テストの2回実施されます。課題は先生やクラスによって異なりますが、私のクラスは、サイドリーダーを読みプリントのまとめる、自分で文章を作成しその文を音読したものを録音するなどの課題が基本毎日ありました。

## ③留学を通じた英語の上達

私には、日本で高く評価される“英語力”は身につけませんでした。TOEFLやTOEICで高得点をとるための英語力をつけることを目的とするならば、36日間の留学は不十分だと思います。

ですが、私の中の“英語”は次の3点で確実に大きく変化しました

1つ目の変化は、英語に囲まれた環境での生活で、標識やチラシなどを英語で読むことに対する抵抗がなくなったことです。勉強時間だけでなく日常生活の中でも、英語を頭の中で日本語に変換することなく英語のまま理解できるようになったのです。

2つ目の変化は、日本人が苦手な単語と単語を繋げて話すこと、それを聴くことも出来るようになったことです。この点においては、授業の回数を重ねるごとに現地の先生にも評価していただけた点であったため自分の一番の成果だと思っています。

3つ目の変化は、英語で自分の意思表示をすることが楽しくなったことです。ホストファミリーにすら英語が伝わらず恥ずかしながら一人涙を流すこともありましたが、英語で自分の思いを相手に伝えられた時、“英語を使えた！”と自分の成長を感じられた時の喜びは涙を流した分大きかったです。

これらの変化を私が実感できたのは、ホームステイやQUTでの他の留学生との交流など、“生きた英語”に触れる機会が非常に多い、このプログラムに参加できたからだだと思います。

## ○私が留学を通して得たもの

私が留学を通して得たものは“自信”です。

私にとって今回の留学が初めての海外であったため、36日間日本を離れること、それに加えてホストファミリーと生活を共にすることは大きな大きな挑戦でした。留学準備から帰国までの間にどれだけ多くの困難があったか分かりません。英語表現によって誤解が生じたり、表情でしか相手を理解できなかったり、最悪の場合会話が切られたりという苦い経験を重ね、英語でコミュニケーションをとることが怖くなったこともありましたが、また、コロナの流行当初であったためか、アジア人に対する差別を感じることもありましたが、それでも、自分の「留学したい」という最初の思いを忘れず、自分が思い描いていた留学をやり遂げられたことは私にとっては何にも変えられない自信となりました。これから先どんな困難が待ち受けているか分かりませんが、オーストラリアでの経験が私の背中をきっと押してくれる

と思います。

## ○この体験談を読んでもくださった皆さんへ

私は、この「オーストラリア多文化共生社会体験プログラム」を、①長期間ホームステイが出来ること②オーストラリアに行けることを強調して自信を持って皆さんにお薦めします。ホームステイ先での状況や皆さんの留学目的によって変わることではありますが、多国籍国家であるオーストラリアで生活する中で学ぶこと、初めて気づくことは非常に多いと思います。私自身、ホームステイの中で、何度自分の中での“当たり前じゃない”ことに出会ったか分かりません。周りの環境が変わるのはとても怖いことですが、日本人という“当たり前”にとらわれないからこそ出会えるものがたくさんあるのです。

準備からはじまり、不安がたくさんあって留学を迷っている人も多いと思います。ですが、「留学をしたい」という強い気持ちさえあれば挑戦できると私は思います。大学を通しての留学であるため、先生や留学交流推進課の方が助けてくれます。ホストファミリーも温かく迎えてくださる人ばかりですし、現地の留学生担当職員やアシストをしてくれる学生もいます。支えてくれる人が本当にたくさんいるのです。

ぜひ、“オーストラリア”多文化共生社会体験プログラムでかけがえのない体験をしてください。

ここまで読んでいただきありがとうございました。



●QUTの正門



●ブリスベン市街のマーケット